

議題1 SRT（スマート・ロードウェイ・トランジット）の名称について

- ・先進的なモノづくり技術の集積地という意味でスマートという言葉が使われるのは非常によい。
- ・SRTで進めていく事で問題ないが、SRTのS（Smart）は意味を問われると思うので今後詰めていくべき。
- ・名古屋だけしか使えない固有名詞のSRTではなく、他の自治体や国でも使ってもらえると良い。
- ・スマートだという事を積極的にPRし、「都心風景の未来を先導」というデザインのコンセプトも併せて認知してもらうための工夫が必要。
- ・SRTが名古屋発祥の新たな路面移動システムだということで定着させ、認知してもらえばよい。
- ・利便性の高い心地よく体験できる先進的な部分を実現し、様々なバス＋公共交通システムに良い部分を活用していく。また情報を活用し、利用者が不安にならない仕組みを研究していき、先進の目標になるとよい。

議題2 トータルデザインについて

- ・都市の一部として埋没してはいけないが、存在感のあるマテリアルカラーで進めていただいて非常に良かった。違ったカラーが入って違和感を持ったものが多かったのでA案（原案）で進めて問題ない。
- ・窓のデザインが重要になってくる。A案・B案を出すためにスタディ案は非常に意味があった。
- ・塗り絵によりしっかりとストーリーができた。長く愛されていくためにはシンプルなデザインがよい。
- ・B案や他のデザインは説明的でとって付けた感があり、A案の強さには勝てない。
- ・移ろいブラック、アーバンゴールドは、ブランド名や企業名を入れるやり方も全然あるので、SRTブラック、SRTゴールドで良いのではないかな。
- ・SRTを組み合わせた金シャチ的ロゴマークに目玉はないほうがデザインとしては美しい。ただ1時間に1回だけ光るなどは話題性があって面白いかも。
- ・名古屋というのがリピータされインプットされていくものなので、NAGOYA SRTの方がしっくりくる。
- ・乗降する位置を誰もが認識できるように、乗り場降り場の表記を明確にすることが重要。
- ・車両の中でどんな体験をしてもらうかを考える。
- ・乗り方、降り方、支払方法など利用者が不安にならないようにする。
- ・まちづくりの中のエレメントという捉え方を徹底させる。

- ・バスの中の機能、デザインをどうしていくのかを議論していく。
- ・乗降空間もスマートに利用できる方がよい。
- ・車両や待合空間での表示については、名古屋の街に溶け込み、車体と一体感をもったデザインで、わかりやすく電光表示させる。
- ・一般市民の目にどう映り、どういうメッセージ性を持つかを意識してデザインする。
- ・S R T停留所はモビリティハブとして、シェアサイクルやeスクーター、グリスロなど二次交通とのセットも考え、トータルデザインに合ったデザインとするとともに、同じ決済方法や料金システムで乗れるとよい。
- ・スマートさの意味からもP T P Sの設置や路車間通信を導入し、多様な運転の工夫が可能になると良い。